

週間火山概況（平成 21 年 2 月 20 日 ～ 平成 21 年 2 月 26 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（2 月 20 日～2 月 26 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 2 月 26 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	浅間山、口永良部島
	レベル 2（火口周辺規制）	雌阿寒岳、三宅島、桜島、 薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象 に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩 手山、吾妻山、草津白根山、御嶽山、富士山、 伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山 （新燃岳）、霧島山（御鉢）
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山（2 月 26 日現在）

【噴火警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

めあかんだけ 雌阿寒岳 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

ポンマチネシリ火口の噴煙はやや多い状態が続き、火口縁上200～300mで推移した。

振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が時々発生したほか、火山性地震は一日あたり10～50回とやや多い状態で推移した。

GPSによる地殻変動観測では、2008年10月初め頃よりやや広域の地殻変動が認められるが、浅部の膨張は認められない。

雌阿寒岳では今後もごく小さな噴火が発生する可能性があり、ポンマチネシリ火口から500m程度の範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。また、風下側では降灰に注意が必要である。

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

あさまやま 浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

山頂火口からの噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上100～200mで推移した。また夜間には、高感度カメラ²⁾で確認できる程度の微弱な火映が時々観測されるなど、熱活動の高まった状態が続いている。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いている。

傾斜計では火山活動による特段の変化は観測されていない。

浅間山では、居住地域の近くまで影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から4kmの範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

- 2) 国土交通省利根川水系砂防事務所の山麓設置カメラによる。

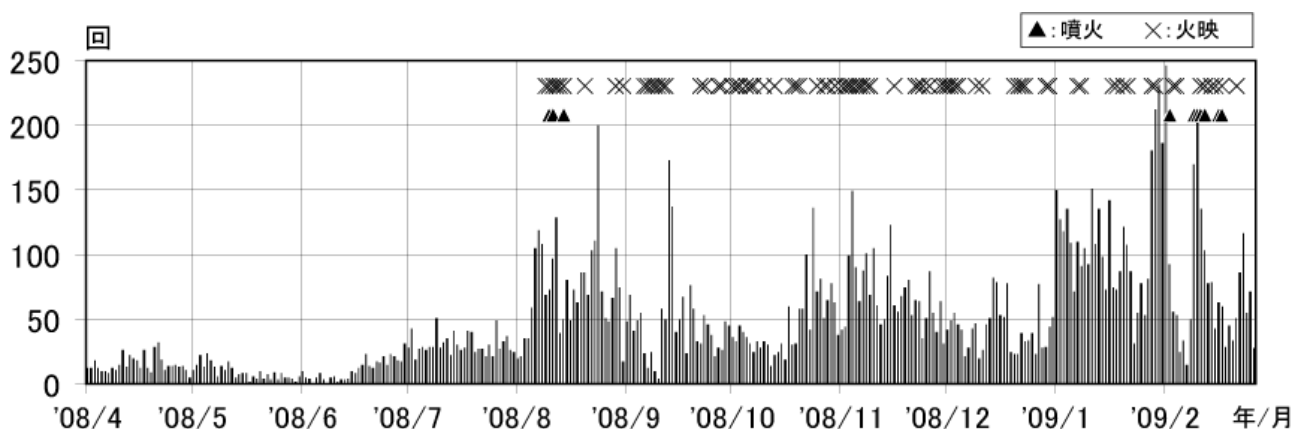


図2 浅間山 火山性地震の日別回数（2008年4月1日～2009年2月26日）

みやけじま 三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね100mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

今期間、現地調査を行っていないが、三宅村によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流にも注意が必要である。

いおうとう **硫黄島** 【火口周辺警報（火口周辺危険）】

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動が継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくあかのば **福岡ノ場** 【噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報】

20日に海上自衛隊が上空から行った観測によると、福岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる変色水が確認された。福岡ノ場付近の海面では、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

さくらじま **桜島** 【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

南岳山頂火口では、22日に噴火が発生した。また、昭和火口では25日にごく小規模な噴火が発生した。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（あいら鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いているが、桜島直下にマグマが新たに移動したことを示す地殻変動は観測されていない。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。

桜島では、南岳山頂火口及び昭和火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾（火山れき³⁾）にも注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

さつまいおうじま **薩摩硫黄島** 【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上50～400mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

22日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、噴煙が充満して山頂火口内の状況は確認できなかったが、山頂火口周辺の状況に特段の変化は認められなかった。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。

くちのえらぶじま **口永良部島** 【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

GPSによる地殻変動観測では、2008年9月以降新岳火口浅部のわずかな膨張を示す変化はやや鈍化しているが、現在も続いている。

島内に設置した遠望カメラでは、白色噴煙が時々観測され、高さは火口縁上20～200mで推移した。

22日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、新岳火口内及び新岳火口南西側噴気地帯の状況に特段の変化はなく、引き続き噴煙が確認された。

21日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり概ね100トンと、前回（1月16日実施、概ね200トン）と比べてやや少ないものの、継続した放出が認められている。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態で推移した。

口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

御岳^{あたけ}火口では20日、21日及び26日に小規模な噴火が発生した。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒 または山麓厳重警戒
レベル4（避難準備）		入山危険
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	火口周辺危険
レベル2（火口周辺規制）	噴火予報	平常
レベル1（平常）		

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。